

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02915

研究課題名(和文) オーセンティック・マテリアルの選定方法とそれを利用した効果的な英語教授法の構築

研究課題名(英文) Authentic Materials: Methods of Selection and Application for Effective English Language Programs

研究代表者

米田 みたか (Yoneda, Mitaka)

武庫川女子大学・文学部・教授

研究者番号：20570724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、英語の授業で使用する教材に適したオーセンティック・マテリアルの選定と教授方法を研究開発することである。オーセンティック・マテリアルを使用した授業を受講した学習者と教員へのアンケート調査と個人・グループ面接から使用実態や使用による長所・短所を浮き彫りにし、その見解と評価を通して考察を行った。学習者の関心とニーズに合った内容と教授方法により、オーセンティック・マテリアルの使用は、学習者の内容への関心と英語学習へのモチベーションを高め、また、英語を実際に生活の中で使用するものであることを実感させ、教室と実世界を結ぶ架け橋になりうるということが考察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今や種々のメディアで生の英語を見聞きすることができる。生の英語を教材(オーセンティック・マテリアル)として取り入れる方法を構築することにより、実際に使われている英語に触れ、世界で起こっていることをリアルタイムで学べ、異文化への理解やグローバルな視点を養うことができる。英語が教室で学ぶだけのものではなく、英語を通して実際の社会との接続が可能になり、授業終了後も英語の使い手に育成することが期待できる。

研究成果の概要(英文)：Viewed from the perspective of students and teachers, and using online surveys and interviews (both individual and group), this research investigated advantages and disadvantages of using authentic materials (AM), and how AM are applied in the classroom. It was concluded that students view AM as difficult, but do not necessarily consider this to be bad. Furthermore, the research concluded that AM can have a positive effect on students' language-learning motivation and desire to broaden their knowledge of wider issues, if the AM are carefully chosen to match students' needs and interests. The research also confirms an advantage posited in the literature; that AM can serve as a bridge between the classroom and the real world. Finally, the research found that educators select and use AM with creativity and ingenuity, whatever the age and level of their students, or the educational context.

研究分野：英語教育

キーワード：英語教授法 教材開発

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

オーセンティック・マテリアルとは、生の教材という意味で教材用に加工されていない、ニュース、新聞、雑誌、インターネットなど日々使用されている英語の教材のことである。ネイティブスピーカー以外の多様な英語も容認される流れの中、ITの進歩と社会のボーダレス化が進み、英語はだれでも簡単にアクセスができる存在になった。このような状況のなか、授業でオーセンティック・マテリアルを使用する有効性と適切性については多くの議論がある。オーセンティック・マテリアルを教材として使った授業の長所は、本物の言語と文化に触れることにより、学習者のモチベーションを上げ、学習者のニーズにも関連付けられることなどがある(Richards, 2001)。一方、むずかしい単語や文法的に正しくない表現もあり、学習者を混乱させるなどの短所の指摘(Guariento & Morley, 2001)もある。教える側にとっては、適切な題材を探し、それに設問やアクティビティの作成など教材として使用するための準備に時間と手間がかかることが問題点として挙げられている (Hughes & McCarthy, 1998)。

このような短所はあるが、著者が行ったオーセンティック・マテリアルを使用した授業では、受講者の時事問題への関心が高まり、英語学習へのモチベーションが上がったことが報告されている (Yoneda, 2015)。オーセンティック・マテリアルを使用することにより、実際に使える英語力の向上が期待できる。それに加え、世界で起こっていることをリアルタイムで学ぶことにより、異文化への理解を深め、グローバルな視点を養うことが可能になる。また、英語が教室で学ぶだけのものではなく、英語を通して実際の社会との接続が可能になる。このような考えから、授業でオーセンティック・マテリアルを有効的使用する研究を行うに至った。

### 2. 研究の目的

グローバル人材の育成が急務となっている今、学習者の実践的な英語力向上とグローバルな視点を養う方法として、オーセンティック・マテリアルを英語の授業で教材として活用する。その効果を最大限に引き出す教材の選定と教授方法を研究開発することが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

本研究では、オーセンティック・マテリアルの最適な教材の選定方法の確立と教授方法を教える側と学ぶ側の両者の視点から調査を実施した。

#### (1) 調査1 学習者対象 (大学の英語専攻の学生)

- ① 調査 オーセンティック・マテリアルを使用した授業を受講した学習者 24 名を対象にアンケート調査を行った。
- ② 調査 アンケート調査後、半構造化面接を 20 名 (18 名の個人面接と 2 名 1 つのグループ面接) を実施し、詳細な遡及的評価のヒアリング調査を実施した。

#### (2) 調査2 教員対象

- ① 調査 日本、シンガポール、アメリカ在住の英語教員 50 名 (中学、高校、工業高等専門学校、短期大学、大学、英語専門学校勤務) を対象に日本語版と英語版によるアンケート調査を実施した。アンケートでは、教員にオーセンティック・マテリアルの使用頻度、種類、目的、方法、教授方法の成功例等の実態調査を行った。
- ② 調査 英語教員 (中学、高校、工業高等専門学校、短期大学、大学、英語専門学校勤務) を対象に半構造化個人面接を実施した。日本語話者の英語教員 12 名、日本、シンガポール、アメリカで教鞭を執っている英語話者の教員 12 名、合計 24 名にヒアリング調査を行った。授業で

のオーセンティック・マテリアルの使用頻度、種類、目的、方法、工夫などの聞き取りを行った。日本、シンガポール、アメリカの英語使用実態が異なる3か国の教育段階の異なる教員から、授業でのオーセンティック・マテリアルの使用状況、使用教材の種類、授業方法などを広範にわたって情報を得ることができた。その後、アンケート調査と面接調査の結果分析を実施した。

#### 4. 研究成果

オーセンティック・マテリアルの定義は、専門家によりどこに焦点をあてるかで異なる。Nunan(2004)など多くの研究者は「教育のために作られたものではないもの」と定義している。Bacon and Finnemann (1990)は、ネイティブスピーカのためのものと明確に定義しているが、これに対して、lingua franca としての英語という観点から定義しているのが Harmer (2015),や Zyzik and Polio (2017) で、「必ずしもネイティブのためにネイティブによるものではない」としている。オーセンティック・マテリアルは「教育目的のものでない」に加え、「コミュニティーにおいて社会的機能を果たすためのものである」(Guariento & Morley, 2001; Little, Devitt, & Singleton, 1989)とも定義されている。さらに、どの程度手を加えたものをオーセンティックと考えるかについては研究者の中でも見解が異なる。少しでも編集や加工を行った時点でオーセンティックではないという考えもあり、オーセンティックかオーセンティックでないかの線引きはむずかしい。以上のようなオーセンティック・マテリアルの定義をもとに本調査は実施し、以下のようなことが考察された。

##### (1) 学習者への調査結果

オーセンティック・マテリアルをリスニングとリーディングの教材として使用した授業を受講した大学の英語専攻の学生を対象に調査を行った。回答した多くの受講生が、「授業で使用する通常のテキストの英語」とオーセンティック・マテリアルの英語に違いがあると答え、学習者にテキストとオーセンティック・マテリアルで使用されている英語に違いがわかることが判明した。また、オーセンティック・マテリアルはむずかしいと答えた受講生も多く、その理由として、リスニングでは、話すスピードが速い、発音が認識できない、単語がむずかしいが挙げられ、リーディングでは、単語がむずかしい、文章が複雑、内容について知識がないが挙げられた。しかしながら、むずかしいと感じた学習者の中の多くは、社会でのできごと、ビジネス、時事問題に関心が増えたと回答していた。自由記述の箇所には、「予習が大変だった」「単語を調べるのに普段の5倍以上時間がかかった」の記載があり、むずかしいから諦めるのではなく、学びを続けたことが考察された。

この後に実施した半構造面接で詳細な遡及的評価のヒアリング調査を行った。18名の個人面接、2名1つのグループ面接を実施し、許可を得たうえで録音をし、それをテキストマイニングの分析ソフトで分析を行った。面接のなかで、授業で使ったオーセンティック・マテリアルはむずかしかったが、内容に興味を持てたため学習を続けられたこと、実社会で使用されている英語を理解したことが自信につながったなどの積極的に評価するコメントが聞かれた。授業では、学習者の専攻に関する題材、アルバイトなど身近なものに関係がある題材を選択し、題材の内容に関連があるものをつなげて、連続性を持たせることによって背景知識への理解が蓄積されるように試みた。また、同じトピックについて、リーディングを先に行い、そのあとにリスニングを実施した。リーディングを先に行うことによって、知らない単語を調べる、内容について調べるなどの十分なスキュアフォールディングスを可能にするためである。この教授方法についても学習者から理解が深まったとの評価が得られた。以上のように、学習者の興味を引く内容

の使用、十分なスキヤフォールディングにより、内容への関心とモチベーションがむずかしさを凌駕し、英語を実際に生活の中で使用するものであることを実感し、英語を理解することの喜びを見出したことが考察された。

## (2) 教員への調査結果

日本、シンガポール、アメリカの3か国に在住し、中学、高校、短期大学、大学、工業高等専門学校、英語専門学校といった教育段階の異なる教育機関で英語教育に従事する50名に日本語版と英語版によるオンラインアンケートを実施し、オーセンティック・マテリアルに関する見解、定義、授業での使用状況、使用教材の種類、授業方法など調査を実施した。ほとんどの回答者はオーセンティック・マテリアルの授業での使用を重要だと考えているが、オーセンティック・マテリアルを構成するものについては、回答者の間で異なる意見が見られ、定義の解釈は必ずしも一致していないことが考察された。その後、24名に半構造面接で詳しい聞き取りを行った。24名の内、12名が日本語話者、12名が日本、シンガポール、アメリカ在住の英語話者の教員ある。面接では、各教員がどのようなオーセンティック・マテリアルをどのように教材をどのように使用しているかを詳細に聞き取った。ICTの飛躍的な進歩によりこれらを積極的に活用していることが報告されたが、それを準備する負担は大きいという意見が聞かれた。これらの調査の結果を国内と海外の学会で発表を行い、国内外の研究者と研究成果を共有した。

オーセンティック・マテリアルは今や簡単に入手ができるものである。学習者からは、日常生活で実際に使用されている英語への興味・関心を持ち、授業を離れても英語ニュースを聞く、英字新聞を読む、授業で取り上げた人物の発言をフォローするなど自ら英語に触れていった姿勢も報告された。この学習経験を活かして、大学卒業後も自律した持続可能な学びへと導くことが可能であると考えている。この点については、今後の課題とする。

## 参考文献

- Bacon, S. & Finnemann, M. (1990). A study of the attitudes, motives, and strategies of university foreign language students and their disposition to authentic oral and written input. *The Modern Language Journal* 74/4, 459-473.
- Guariento, W., & Morley, J. (2001). Text and task authenticity in the EFL classroom. *ELT Journal*, 55(4), 347-353.
- Harmer, J. (2015). *The practice of English language teaching* (5th ed.). Harlow: Pearson Education Limited.
- Hughes, R., & McCarthy, M. (1998). From sentence to discourse: Discourse grammar and English language teaching. *TESOL Quarterly* 32(2), 263-287.
- Little, D., Devitt, S., & Singleton, D. (1989). *Learning foreign languages from authentic texts: Theory and practice*. Dublin: Authentik Language Learning Resources Ltd.
- Nunan, D. (2004). *Task-based language teaching: A comprehensively revised edition of designing tasks for the communicative classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Richards, J.C. (2001). *Curriculum development in language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Yoneda, M. (2015). Raising learners' global awareness through the use of authentic materials. *Mukogawa Literary Review*. 52, 33-45.
- Zyzik, E., & Polio, C. (2017). *Authentic materials myths: Applying second language research to classroom teaching*. Ann Arbor: The University of Michigan Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 クリストファー・ヴァルヴォーナ、 米田みたか	4. 巻 第16号
2. 論文標題 Authentic Materials in Language Learning: Definitions, Advantages and Disadvantages, and Future Directions of Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沖縄キリスト教学院大学論集	6. 最初と最後の頁 1頁 10頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米田みたか、クリストファー・ヴァルヴォーナ	4. 巻 第7号
2. 論文標題 Authentic Materials Selected for the Future Needs of Students: Difficulty, Interest, and Autonomy as Perceived by Learners	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in English Teaching & Learning in East Asia	6. 最初と最後の頁 41頁 56頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 米田みたか クリストファー・ヴァルヴォーナ
2. 発表標題 Using Student Interviews to Evaluate Usage of Authentic Materials in the EFL Classroom
3. 学会等名 CLaSIC 2018 The Eighth CLS International Conference National University of Singapore (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米田みたか、 クリストファー・ヴァルヴォーナ
2. 発表標題 Learners' Perspectives on Authentic Materials in the EFL University Classroom
3. 学会等名 TESOL 2018 International Convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米田みたか、 クリストファー・ヴァルヴォーナ
2. 発表標題 Authentic Materials for Career-readiness of University English Majors
3. 学会等名 TESOL 2018 International Convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米田みたか
2. 発表標題 Authentic Materialsを使った授業の考察： 学習者への調査結果から
3. 学会等名 JACET 第196回東アジア英語教育研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米田みたか、 クリストファー・ヴァルヴォーナ
2. 発表標題 Authentic Materials in the Language Classroom:Teacher Perspectives on Use, Advantages,and Disadvantages
3. 学会等名 Hawaii International Conference on Arts & Humanities (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	Valvona Chris  (Valvona Christopher)  (40532578)	沖縄キリスト教学院大学・人文学部・教授    (38004)	